

百代郷 夢びと 山びと この指とまれ

特定非営利活動法人海虹路（平成20年度）

三重の森林文化の振興に向け、県民の皆さんと森とのより良い関わりづくりを進めるための取組を募集したところ、古くから林業が営まれ、かつては森と人との結びつきも強かった「尾鷲地域」において、再び地域の人々の森への理解と関心を深め、人々の森への思いと関わりづくりを進めることで、「地域住民の手による持続可能な森づくり」を実現したいと提案されました。

20年度は、地域自治会・小中学校等との調整や下地づくり、子どもたちへの森林学習、地域内外より170名を超える参加者を得ての森づくりキックオフ（植樹）活動を行いました。

この取組は、21年度以降本格化し地域内外の様々な方の参画を得ながら進められています。

おわせアスカの森づくり



災害時における難病患者の行動・支援マニュアル作成・啓発

災害時の難病患者支援プロジェクト(平成17年度)

地震による多大な被害が予想される中、継続治療が必要な難病患者の支援をどう行うのか。患者自身の意識啓発と、関係機関の行動をマニュアル化して備えることが必要と、防災NPOと患者支援を行うNPOが共同で提案されました。

1型糖尿病をモデルに、患者・家族、医療機関、製薬企業、行政等が2年間に亘る検討を行い、支援者向けチラシ、患者の心得帖、患者の行動と支援のマニュアルが完成しました。

協働事業終了後の平成19年度には、NPOの自主事業として、こうしたマニュアル等を使って1型糖尿病災害トレーナーの養成、啓発セミナー、災害時の要援護者避難訓練に取り組まれています。これは、災害拠点薬局の設置や災害備蓄薬品の見直しのきっかけとなった取り組みでもあります。

支援者向けチラシ



子どもの心を受け止める 24 時間フリーダイヤル相談電話事業

特定非営利活動法人 MIE チャイルドラインセンター（平成 15 年度）



子どもが安全に安心して豊かに育つ社会を再構築し、子どもの心を受け止める仕組みを社会全体で作っていくために提案されました。1年半の議論を経て「子どもの心を受け止めるネットワークみえ」と「チャイルドライン 24」実施組織

が発足され、二つの組織で役割分担するという協働の形が生まれました。

ネットワークを通じた話し合いは 25 回を超え、組織間、セクター間の相互理解を深め、また、NPOも県と協働することで地域での信頼が得られ、地域のネットワークも広がりました。

いじめや虐待の報道が後を絶たない中、子どもの心を受け止めるチャイルドラインの存在は大きく、行政や企業をパートナーとした新たな公を模索し、社会の仕組みづくりに取り組まれています。

県営住宅の外国人入居者への生活ガイダンス及び管理事業

特定非営利活動法人愛伝舎（平成 17 年度）

県内の外国人の数は増加し、定住化傾向にあることから、外国の人々が日本で暮らしていくうえで必要なルールや習慣を伝え、快適に暮らせる社会を創ることを目的に、管理事業と生活ガイダンス事業の 2 本の提案がなされ、二つの提案が合わせて検討されました。

管理事業では、県営住宅に居住する外国人に対し、県とNPOの連携で通訳や広報文書の翻訳を行い、言葉の壁を取り払うことで、生活上の不安解消につなげることができました。これには、提案者の独自システムである電話通訳システムが、その機動性・経済性の面で威力を発揮しており、現在も取り組まれています。

生活ガイダンス事業では、外国の人々の生活全般にわたる支援について検討し、平成 18 年度には、ブラジル人学校の子どもたちに、交通安全や日本の生活習慣など、暮らしに必要な情報を伝えることができました。

電話通訳システム

